

(別紙様式＝中学校用)

都道府県番号	31
都道府県名	鳥取県

【 ① ② ③ 】

\*重点をおいた観点にチェックすること

## I 学校名及び規模

学校名	鳥取市立北中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	4	1	15	30
生徒数	188	188	148	1	525	

## II 研究の概要

### (1) 研究主題

生徒一人ひとりへの確かな学力向上を図る教育の創造  
～ 教育課程と指導方法の工夫改善を通して ～

### (2) 研究主題設定の趣旨

#### ○仮説

##### (1) 学力向上のための直接的アプローチ

- ア 生徒に付けさせたい各教科の学力（基礎的な力・発展的な力）を具体的に規定し、生徒の実態に応じて、教科の指導内容の質的向上について研究し、教材開発に努めれば学力が向上するであろう。
- イ 諸検査やテスト等を利用して客観的に生徒の能力や資質、特性を分析し、生徒個々に応じた目標設定や指導方法を工夫改善し、効果的な指導を行えば学力が向上するであろう。
- ウ 到達させたい学力に基づいた評価方法を研究することで、生徒へのフィードバックはもちろん教科指導法や内容の改善を図っていけば学力は向上するであろう。

##### (2) 学力向上のための環境的アプローチ

- ア 校区3小学校との連携を有機的に行う。その際、情報交換や指導法の研究連携にとどまらず教科の学習内容や到達目標等の具体的な研究連携をしていけば学力が向上するであろう。
- イ 学習する場の基本となる学級集団や学年集団の雰囲気や文化（規律・秩序等）は、個々の生徒の学力定着や向上に影響を及ぼす。したがって、学級経営や人間関係づくりの在り方を研究していけば、より効果的に学力が向上するであろう。
- ウ 生徒の家庭学習をはじめ生活習慣や食生活など家庭生活が学力向上に影響を与えているであろう。したがって、家庭や保護者と連携を図っていくことで学力が向上するであろう。

#### ○研究内容・方法

##### (1) 教科における学力規定と教材開発

- ア 生徒に習得させたい各教科の学力の規定  
教科でねらう学力は？＝評価計画＝テスト問題への具現化  
(教科会での検討、分析)
- イ 教材開発に努め、教科の指導内容の質的向上を図る

##### (2) 指導方法、指導体制の工夫改善

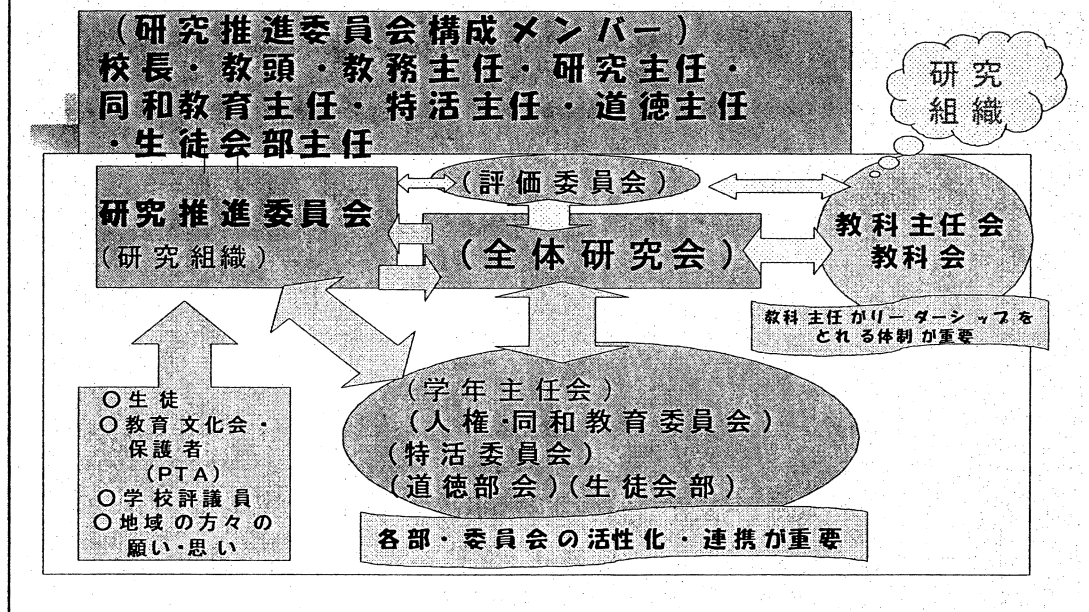
- ア 英語・数学における少人数授業の指導法の工夫
  - ・1クラス2コース制と2クラス3コース制
  - ・コース毎の目標設定と指導内容
- イ 選択教科における補充的・発展的学習の在り方
  - ・学力向上につながる補充的学習内容の工夫
  - ・学習意欲を喚起し、学力を深める発展的な学習の工夫
- ウ 校種間の連携と授業交流
  - ・校区の小学校に出向いての出前授業（英語、数学、音楽）
  - ・小学校との授業研究会

- ・近隣の高等学校での授業体験（数学）
- ・大学からの出前授業（理科）
- エ 教職員の先進校視察
  - ・数学、英語、総合、道徳、評価分析関係等
- オ 校内研究授業
- (3) 生徒の実態分析と評価について
- ア 諸検査を通しての生徒分析と職員研修
  - ・標準学力検査・知能検査・学習適応検査・道徳性診断テスト・基礎学力調査・校内実力テストより
- イ、教科における絶対評価方法の工夫

### Ⅲ 研究の概要（選択した観点を中心に記述すること）

#### (1) 研究推進体制の工夫

- 学力向上フロンティア事業が、全職員の課題としてとらえられ、かつ決定事項がスピーディーに実践できるよう、各主任の役割を明確化させた。また、各委員会の連携をとりやすいよう、定期的な委員会活動の企画、評価（数値目標の設定を含む）を実践した。
- 評価委員会を主に年度当初に集中して開催することができた。また、来年度に向けて、本年度末に評価委員会を実施することとした。
- 前期、各教科主任が、自ら授業者となった教科研究授業・研究会を開催するなど、教科主任を、指導と評価の研究推進者と位置づけた。
- 校区4小中学校の研究主任会を定期的に開催することにより、学力向上に関する情報交換を密に行うなど、小中連携の充実を図った。



#### (2) 研究の実際

- テーマ  
「生徒一人ひとりの確かな学力向上を図る教育の創造」  
～ 教育課程と指導方法の工夫改善を通して ～

### 1, 指導の充実をはかり基礎・基本や自ら学び考える力をつける

- ◎少人数指導の充実
  - ・2年生と3年生（数学・英語科）
 昨年度より、数学科および、英語科については少人数授業の実践を積み重ねている。基礎的・基本的な事項の習得をその学習の中心に据えながら、発展的な学習・補充的な学

習にも積極的に取り組んでいる。

◎T・T授業の実践

- ・1年生と3年生（国語）

表現力を高める指導に焦点を当てた研究に全教科で取り組んでいる。この研究においては、校区小学校とも連携しての取り組みとなっている。特に国語科においては、T・Tを取り入れての授業を実践し、表現力を高めるための個別指導の徹底を図っているほか、パネルディスカッション等に取り組むなど指導の工夫にも取り組んでいる。

	国語		数学		英語	
	学習形態	実施方法	学習形態	実施方法	学習形態	実施方法
1年 (5クラス)	T・T	通年・全クラス週1時間	一斉授業		一斉授業	
2年 (5クラス)	一斉授業		等質 少人数	通年・1クラスを2コース	等質 少人数	通年・1クラスを2コース
3年 (4クラス)	T・T	通年・全クラス週2時間	等質 少人数	通年・2クラスを3コース	習熟度別 少人数	通年・2クラスを3コース

※習熟度別編成は、生徒の希望をもとに、教科担任が調整及びクラス編成を行う。

## 2, 補充・発展的な学習で、一人ひとりの個性等に応じて子どもの力をより伸ばす

◎3年生・総合ゼミナールの実施

【選択授業の発展的コースと関連させての実施】

生徒自ら進んで課題を発見し、それを追求しようとする生徒の育成のための総合の時間と位置づける。そのため、教育課程を柔軟に編成することによって、ゆとりを持って生徒が活動でき、また課題を追求できる時間と場所を確保する。

その一つの方法として、北中校区の近隣の施設（県立博物館・図書館・公文書館・歴史博物館・わらべ館・県民文化会館・いなば万葉歴史館等）を積極的に且つ、有効に活用し、生徒の学びの場を広げていく。また、外部講師の方にも協力をさせていただき、生徒の学びに対する関心・意欲を高めると共に、より専門性・質の高い授業を推進する。これらの取り組みによって、生徒の創造性、自主性、発展性の伸長を図る。

また、本年度は、昨年度より実施している、高校・大学との連携も継続・発展させ、夢を育む教育を展開する。

（実施）H15

- ・3年生選択社会における、校外施設（県立図書館・いなば万葉歴史館）の活用
- ・外部講師による授業
- ・3年生選択国語における、校外施設（いなば万葉歴史館）の活用

◎3年生・パワーアップタイムの実践

- ・学力実態を考慮した、全校体制で習熟度別『パワーアップタイム（学力補充・発展的な学習）』の実践（全3年生対象で実施）を行った。本年度、後期中より実施をしている。

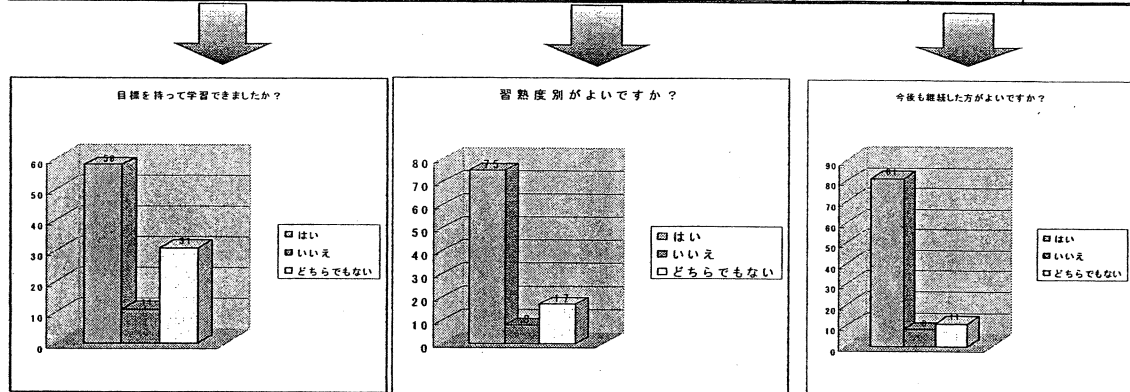
この取り組みは、前期に実施された「基礎学力の定着が図られていない生徒」・「学習の方法がわからない生徒」・「学習意欲の向上をさらに望む生徒」（希望者）を対象に、週に1度放課後を利用して実施されていた『質問教室』を発展させた学力補充及び発展的な学習の機会を増やす取り組みとして行っている。

パワーアップタイムの趣旨	5教科の補充・発展的な学習及び実力養成。習熟度別クラスにより、その指導内容・指導方法を工夫し、生徒の学習意欲の高揚をはかるとともに、実践的な力をつけさせる。本年度は、3年生を対象に実践をする。
実施時間	月曜日・水曜日の放課後(ゆとり)の時間 50分間 (後期より)

	3年1・2組	3年3・4組
A日程	数学・習熟度別5コース	英語・習熟度別5コース
B日程	英語・習熟度別5コース	数学・習熟度別5コース
C日程	社会・習熟度別5コース	理科・習熟度別5コース
D日程	理科・習熟度別5コース	社会・習熟度別5コース
E日程	国語・習熟度別5コース	数学・習熟度別5コース

(パワーアップタイム アンケート集計結果 H16 2月実施)

	目標を持って学習できましたか？			クラス単位よりコース別(習熟度別)がよいですか？			今後も継続した方がよいですか？		
回答項目	はい	いいえ	どちらでもない	はい	いいえ	どちらでもない	はい	いいえ	どちらでもない
回答	58%	11%	31%	75%	8%	17%	81%	8%	11%



### 3, 学ぶ習慣の定着化

学習習慣の定着を図る、学校全体での取り組み  
 ※生徒の委員会活動との連動、仲間づくりと関連させて楽しく実践する工夫

#### 【家庭学習時間調査】

- 全校の取り組みとして、生徒一人一人の家庭学習時間を個人家庭学習時間記録カードに記入することとした。生徒会活動(学習委員会)の一環として取り組み、学年ごとの目標時間達成に向けて、学級・学級の生活班・個人ごとに楽しく取り組んだ。毎月の目標学習総時間(1・2年生 60時間)(3年生 100時間)を設定し、目標達成に向けての取り組みを実施した。

家庭学習時間記録カードの活用 H15 11月より実施

#### 【家庭学習個人記録カード】

さあ160時間にChallenge!!  
 11月だよ 4組28番 氏名

							1
							1
2	3	4	5	6	7	8	
2	2	3	2	10	12	12	2
3	5	8	10	12	12	14	
9	10	11	12	13	14	15	
5	19	21	22	23	25	27	28
16	17	18	18	20	21	22	
2	2	2	2	2	1	2	
30	32	34	36	38	39	41	
23	24	25	26	27	28	29	
3	3	1	3	2	2	2	
3	44	47	48	51	53	55	57
30							
2							
59							
		10月合計	全体合計	保護者	担任		
		59	119				

☆今回のシリーズを振り返って・・・  
 本人朝前より半分近くはいるのでびっくりです。あと意識したいと思います。  
 保護者 時間をとるにつれて勉強していた。それに気づいた。今の調子で頑張ってください。

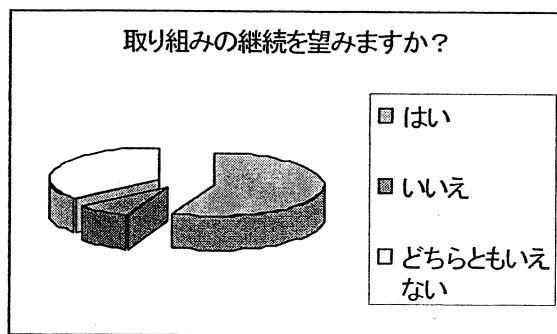
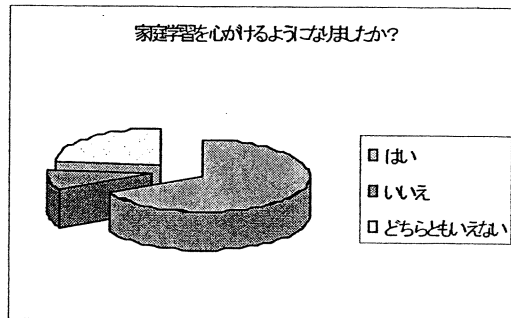
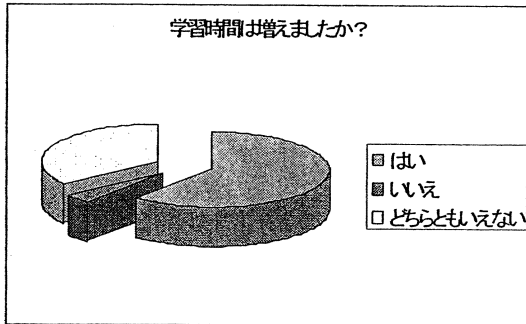
#### 【12月の学習時間統計】

記録カードをもとに学級ごとに集計  
 学級ごとの1ヶ月 平均総学習時間

	1年	2年	3年
1組	50時間	43時間	☆106時間
2組	54時間	43時間	98時間
3組	☆64時間	38時間	77時間
4組	☆79時間	42時間	89時間
5組	53時間	39時間	

☆印が、目標とする学習時間を達成。  
 全校生徒に結果を公表すると共に、委員会活動として呼びかけを継続。

家庭学習記録カードについてのアンケート									
	アンケートを始めてから家庭学習時間は増えましたか？			家庭学習を毎日するように心がけるようになりましたか？			この取り組みの継続を望みますか？		
	はい	いいえ	どちらとも いえない	はい	いいえ	どちらとも いえない	はい	いいえ	どちらとも いえない
1年生(%)	55	5	40	65	11	24	51	11	38
2年生(%)	47	3	50	48	15	37	39	12	49
3年生(%)	81	3	16	89	0	11	78	0	22
全体平均 (%)	61	4	35	67	9	24	56	8	36



※全校生徒のアンケート結果より  
 ・学年間における格差が大きかった。  
 その指導における違い、取り組み  
 状況（班ごと・学級単位）などの実  
 態による結果への影響を、今後分析  
 ・検討をしていく必要がある。

## 4, 評価方法の工夫と改善

- (1) 教科会の充実を図ることにより、教科ごとの話し合いを持ちやすくし、指導と評価の一体化を意識した指導方法の工夫改善を行った。(数学・英語は時間割内に教科会を位置づけ)
- (2) 評価規準表の作成・活用を行い、指導と評価の一体化に努めた。  
 ※生徒・保護者への公開資料・・・各教科年間学習計画・各教科評価の観点・評価の視点を保護者・生徒に示すと共に、テスト作りに反映した。  
 『年間の学習計画』及び『各教科の評価の観点』を生徒・保護者に示すことを通して、各教科の意図するところを生徒・保護者に理解してもらいやすくなり、課題の提出・教材の準備等の状況が向上した。

【学習指導計画及び観点別評価規準表 数学科の例】

平成15年度 第3学年 数学科 学習指導計画及び観点別評価規準表

1 数学科における基礎学力

教科書において、

- ①計算ができ、図形・グラフがかけること。(数学的な表現・処理)
- ②計算式、図形、グラフなどの使い方がわかること。(数量・図形などについての知識、理解)
- ③見通しをもち、論理的に考えることができること。(数学的な見方・考え方)
- ④積極的な姿勢で授業に取り組むこと。(数学への関心・態度)

2 学年目標

- (1) 数の平方根について理解し、数の概念についての理解を一層深める。また目的に応じて計算したり式を変形したりする能力を一層伸ばすとともに、二次方程式について理解し、式を能率的に活用できるようにする。
- (2) 図形の相似や三平方の定理について、観察、操作や実験を通して理解し、それらを図形の性質の考察や計量に用いる能力を伸ばすとともに、図形について見通しをもって論理的に考察し表現する能力を伸ばす。
- (3) 具体的な事象を調べることを通して、関数  $y = ax^2$  について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を伸ばす。

3 第3学年の評価の観点の趣旨

数学への関心・意欲・態度	数学的な見方・考え方	数学的な表現・処理	数量、図形などについての知識・理解
様々な事象を数量や図形などでとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考えることに関心をもち、意欲的に問題の解決に活用しようとする。	数学的活動を通して、数量、図形などについての基礎的な知識と技能を確実に習得するとともに、それらを活用しながら、数学的な見方や考え方を身に付け、事象に潜む関係や法則を見いだし、数学的な推論の方法を用いて論理的に考察する。	平方根を含む式の計算ができ、数量の関係や法則を方程式などを用いて表現し処理したり、図形の性質について推論の筋道を簡潔に表現したり、数量関係を的確に表現したり数理的に処理したりする。	数の平方根の意味、単項式と多項式の計算、式の変形の意味とはたらき、二次方程式、図形の相似の意味や直角三角形の性質、二次関数の特徴などを理解している。

4 学習指導計画及び観点別評価規準

月	単元名 (題材)	単元目標	時 学習指 導の内 容	単元の観点別評価規準				時 改 善 点
				数学への関心・意欲・態度	数学的な見方 や考え方	数学的な表 現・処理	数量、図形などにつ いての知識・理解	
4	1,式の 計算 配 当時間 18時 間	式を扱いやすい形に変える方法として展開したり、因数分解することを理解し、式を見通しをもって効果的に活用できるようにする。	4 §1 式 の乗法 ・除法	・単項式と多項式の乗法・除法の計算に意欲的に取り組む。 (課題/発言/取組/自評)	・多項式同士の乗法・除法のきまりを見つけることができる。 (単テ/定テ)	・単項式と多項式の乗法・除法の計算ができる。 (単テ/定テ/ノート)	・単項式と多項式について説明することができる。 ・分配法則について理解している。 (単テ/定テ/自評)	
			3 §2 乗 法の公 式	・式の展開に関心をもち、公式を使って、意欲的に取り組む。式の展開に関心を持つ(課題/発言/取組/自評)	・ $(x+a)(x+b)$ の展開から、乗法の公式を導き出すことができる。 (単元テ/定期テ)	・乗法公式を用いて式の展開ができる。 (単テ/定テ/ノート)	・式の展開に関する用語、記号について説明することができる。 (単テ/定テ/自評)	

【中間テストにおける『達成状況の自己理解表』】

中間テスト 「達成状況の自己理解表」					
組 番 氏名					
学習内容 : 「正の数・負の数」、「正の数・負の数の計算(加法・減法)」					
項目	達成してほしい内容	問題番号	得点	評価	ひとこと
数量、図形についての知識・理解	※正負の数の意味が分かる。 ※数の大小関係、絶対値の意味が分かる。 ※加法・減法の計算の仕方が分かる。	1. 2. 3. 7. 9	22 24	A	よくできました!! この調子でいきたいと思います☆
数学的な表現・処理	※数を数直線上に表せる。 ※大小関係を不等号を用いて表せる。 ※正負の数の加法・減法の計算ができる。	5. 6. 10. 12	40 44	A	計算が合っているか不安 良かったですGOODです♡
数学的な見方・考え方	※加法・減法の意味が分かる。 ※学習内容を活用し、課題を解決できる。 ※いろいろな考えをまとめたり、一般化して考えることができる。	4. 8. 11. 1 3. 14. 15. 16	22 32	A	合っているか不安だった所が 成ってからは、これから物に 前がよい物にしたい。
数学への興味・意欲・態度	ドリル学習		7 8	A	ちゃんと頑張ったかな??
	発表回数		6 11	C	あま〜くさい(笑)
	授業の取り組み		16 21	B	これから...がんばります!!

(評価 A:よくできた B:まあまあ C:不十分)

数学の学習の反省を書いて下さい。また、これからの取り組みについても書いて下さい。

あとドリル学習はやっていなかったけど、けっこう分かる物に当たりました!!  
のど、どんどんやりましたよ!!。これからは? 何所は? どんどん買もん材料、友達にま  
たいに自分の苦手な単科(?)をつぶしていきたいです!!。がんばります! おおがいます!!

H15 2年 前期【各教科の学習内容と評価の視点の例】 生徒保護者配布用

	前期の学習単元・題材	評価の観点	評価の視点
国語	1, 想像力を豊かにしよう (椰子の実、短歌を味するか、方言と共通語)(漢字のしおり・文法)	1 意欲的に国語学習に参加し、課題を提出することができる	漢字プリント、課題提出(ワーク、その他)、準備、発言(挙手)学習態度
	3, 読書で視野を広げよう(僕の防空壕・想う)	2 自分の考えを適切に話したり、正確に	発言(態度・内容)、聞き取りテスト
	4, 様々な情報を役立てよう (小さな労働者・神奈川沖浪裏)	4 文章の筋道をとらえながら正確に読み、内容を理解することができる	音読、テスト(内容把握)
		5 言葉のきまりを理解し、漢字や語句などを正しく使うことができる	テスト(漢字の読み書き、文法)
	社会	1, 近代社会の発展	1 学習に対する関心を高め、意欲的に取り組むことができる
2, 近代ヨーロッパの世界支配と日本の開国		2 社会的事象について、自分の考えをまとめることができる	レポート(記述問題)、発表、ノート
		3 必要に応じて資料等を適切に活用し、表現に役立てることができる	中間テスト、期末テスト、実力テスト
		4 学習内容を理解し、知識を身につけている	中間テスト、期末テスト、小テスト、実力テスト

(3) 授業研究会の開催方法を工夫し、職員研修の機会を増やした。  
 ※年間20回の授業研究会において、表現力を高める指導の工夫に関する研究を深めることができた。また、それぞれの授業研究会を受けて、教科ごとの研究会を開催し、その話し合い事項を全職員に還元することができ、職員研修・授業研究の推進に役立った。

(4) 自己評価をもとに個別指導・次時の補充指導に活用した。・・・(例1)

(例1) 数学自己評価カード

数学科 自己評価カード

組 番 氏名

自己評価を○×、または4段階(ABCD)でしてください。

日付	発表ができた	ドミノの配置	取り組めた	進んで授業に	分かった	今日の感想
12/1	○	○	A	A	A	図形はおもしろそう
12/2	○	○	A	A	A	もっとおもしろい
12/3	○	○	A	A	A	説明はコンパクトに
12/4	○	○	A	A	A	内角や外角のことがよくわかる
12/7	○	○	B	A	A	この方はまだまよまよしている
12/8	○	○	A	A	A	角についてよくわかる
12/9	○	○	A	A	A	いろいろな条件がある
12/10	○	○	A	A	A	合同条件がわかった
12/13	○	○	A	A	A	証明は要領よく
12/14	○	○	A	A	A	証明はおもしろ
12/20	○	○	A	A	A	楽しかった
12/21	○	○	A	A	A	エッセンスがつかえた
12/22	○	○	A	A	A	テストがよくなった
12/24	○	○	A	A	A	図形は楽しい
12/24	○	○	A	A	A	定理をどんどん使おう
12/25	○	○	A	A	A	定義も使おう
12/28	○	○	A	A	A	今日の先生
12/28	○	○	A	A	A	発言がよくなった
12/22	○	○	A	A	A	新しい合同条件ができた
12/25	○	○	A	A	A	今年最後の授業だった

(例2) 学習評価カードの活用

1月28日(木) 6限

◇授業の評価

もっと発表しました。  
授業の取り組はよかったです。

◇課題 家のジャンパー、洗濯物をさらせる。

◇準備 11つとどーり  
⑦・7-7デック

※各教科、様々な様式を工夫して実践

※全学年・全教科(毎授業後)の取り組み

各教科ごとの評価に対する取り組み

①【基礎・基本と発展の区別】

各教科ごとに基礎・基本と発展のとらえ方を明確にするとともに、指導に向けての共通理解を図る。(上記、『学習指導計画及び観点別評価規準』参照)

②【基礎学力定着の手だて】

- 指導と評価の一体化を図るために、その基礎となる学力定着のための、具体的な手だてを工夫し、実践化を図る。
- 評価規準表を活用し、授業開始時には、本時の授業の目当てを生徒へ確認する。
- 毎授業後に、クラスの授業への取組評価を教員が教科係へ伝える。学級ごとの終学活において、教科係より授業担任の評価を伝え、よかった点はほめ合い、悪かった点は学級の話合い事項として改善を図る。(主に、学習規律・集団の学び合いに関するものを評価する).....(上記 例2)
- 単元テストごとに、評価規準に達成できなかった生徒(評価Cの生徒)への、継続した個別指導を行った。また、夏休みには、評価Cの生徒及び希望者を対象に補充指導を実施した。.....(例3)

(例3) 単元テストの繰り返しにより、学習の定着がはかれた社会科の例

※年間14回の計画

第12回		単元テスト		評価Cの生徒の人数推移				
	第1回目		第2回目		第3回目		第4回目	
	評価Cの人数		評価Cの人数		評価Cの人数		評価Cの人数	
実施人数 (全188人)	65人	→	45人	→	20人	→	5人	個別指導
第13回		単元テスト		評価Cの生徒の人数推移				
	第1回目		第2回目		第3回目		第4回目	
	評価Cの人数		評価Cの人数		評価Cの人数		評価Cの人数	
実施人数 (全188人)	72人	→	30人	→	16人	→	8人	個別指導

- 尚、個別指導は放課後行うことを基本として実践をした。生徒も、積極的に個別指導を受ける姿が見られた。
- 各教科ごとに、基礎学力の向上に向けての具体的な取り組みを検討できたことは意義深かった。また、途中経過時点での検討・反省が行われ、より効率的に学力向上を図るための、指導の工夫改善が行われた。



**【指導工夫改善により、学力の向上が見られた例】**

- ～ 校内実力テスト・同一問題・同一時期の実施 ～  
 ア 昨年度に比較し、1・2年とも前年度をやや上回る傾向。  
 イ 現1年生の数学においては、昨年度の得点を下回った。昨年度は少人数指導（1クラスを2コース・2学期からは、習熟度別指導の導入）であったが、本年度は一斉授業の形態での授業となっている。この点が、学力面での影響となっているのかを検討する必要がある。

実力テスト (2月)					
	現3年(中2時)	現2年		現2年(中1時)	現1年
検査日	2003. 2/18	2004. 2/6	検査日	2004. 2/18	2004. 2/9
国語	21.7	☆21.9	国語	52.3	☆54.1
数学	27.3	☆28.1	数学	57.8	56.5
英語	20.1	☆21.8	英語	49.3	☆49.7

☆印が、前年度を上回った教科。

③【観点別評価について】

- 各観点別に以下の点についてその指針を明確にする  
 ア 観点別評価規準をもとに、評価規準表の作成を行い、指導に生かす。  
 イ 評価における数値化を明確にし、評価における信頼性・透明性の向上を図る。  
 ウ 学習成績に結びつく評価総括表を作成し、評価規準をより明確にする。

④【年間指導計画】

指導と評価の一体化を意識するための観点別評価規準を入れた、年間指導計画を作成した。

⑤【振り返り】

夏季休業中及び前期終了後には、各教科ごとに年間指導計画・評価規準等の見直しを図り、評価におけるより一層の工夫と改善に努めた。

## 5, 校種間の連携と授業交流

**【小学校との連携】**

- 校区3小学校との授業研究会の他、中学校の教員が小学校へ出かけて行う『出前授業』を8回開催することができた。
- 小学校との連携によって、学習規律を始めとする、基本的な学びの基礎作りの共通理解及び共通実践がはかれた。
  - ・小学校と連携して、9年間を見通した学習規律規準表の作成
  - ・小・中連携しての表現力を高める指導の工夫
  - ・校区の小学校での出前授業（英語、数学、音楽）
  - ・小学校との授業研究会


【児童感想文】

【算数授業・小学生へのアンケート】

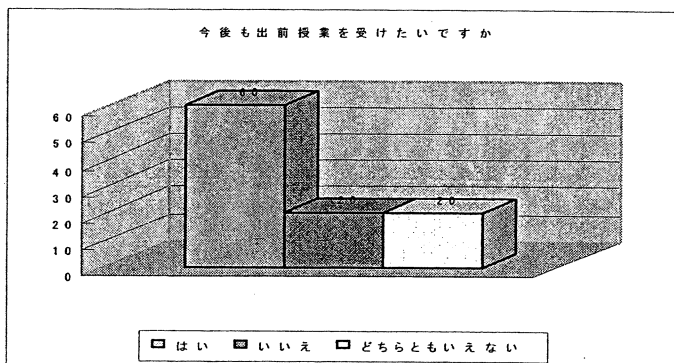
1月30日(金) 北中出前授業(算数)の感想を書きましょう。

と、やる分が楽しかったです。中学校は、少しいいイメージがあったけど、よく分かりやすいと教へてくれたので、中学校に行くのが楽しみになりました。この勉強で、何と何と比べて何が、何を覚えるかと聞いて、おどろいた。それを覚えたよと喜んで、おどろきました。早々の勉強でもこれを使っていたのが、早々の勉強でもありや、おどろいた。中学校に入ったよと、おどろいた。時間は短かったけど、とてもいい経験になりました。

本当に  
ありがとう  
か、ありがとうございました。



項目	真剣に授業に取り組めましたか			授業の内容は理解できましたか			今後も、出前授業を受けてみたいですか		
	はい	いいえ	どちらともいえない	良く理解できた	だいたいできた	よく分からなかった	はい	いいえ	どちらともいえない
回答%	72	0	28	60	32	8	60	20	20



【高校との連携】

- ・3年生希望者による、鳥取西高校での高校教諭による授業体験 (H15 3クラスの実施)
- ・本校3年生が、校区にある鳥取西高等学校(普通科)へかけて、高校の先生による数学の授業体験を経験することができた。約25名の3年生(3グループ)が、3回に分かれそれぞれ1時間ずつ授業を受けることができた。高校での数学授業を体験することにより、進路選択に対する意識の高揚が図られると共に、中学校での数学授業の基礎・基本の重要性を再認識したようであった。また、毎年この事業を通して、中学・高校の数学科の連携が深まってきている。

【大学との連携】

- ・3年生選択理科における、鳥取大学(教授3名の講座)での体験授業。(H15 年間6回 計12時間)
  - ・3年生選択理科希望者による、夏休み中の実験実習及び研究のまとめ (H15 3日間 17時間)
- 鳥取大学との連携講座を年間6回(12時間)開催した。昨年度は、大学の教授・助教授に中学校へ来ていただく形態での授業実践であったが、本年度は中学生が実際に大学へ出かけて授業を受けることができた。なお、講義の他に、夏季休業中3日間にわたり、大学の施設を利用し、大学教授・大学院生(計12名)の援助のもと、実験・実習を行った。さらに、事後には実験グループごとにプレゼンテーションを作成し、学習発表において、研究の成果を発表することができた。

(3) 研究の成果と課題

【成果】

- 各教科主任の研究に対する前向きな姿勢が、全職員の中に浸透してきており、職員一人一人が課題意識を持って教材研究等を行ったり、授業参観をお互いにする機会が増えた。そのことによって、生徒一人一人の指導にも細かな配慮がされた授業展開が意識されるようになった。少人数指導及びT・Tによる学習指導においても、教師同士の研修の機会が増え、そのことが指導力向上につながっている。
- 家庭学習時間を増やす取り組みを継続していく中で、生徒一人一人の家庭学習充実に向けての恒常的な意識の高揚が見られた。また、個人ごとの家庭学習時間の増加が図れた。

- 放課後の『質問教室』の開催によって、課題意識を持って学習に取り組む生徒が増え、質問教室を学年全体の習熟度別『パワーアップタイム』の取り組みへと広げることができた。このことにより、昼休憩時間等にも積極的に学び合い・教え合う生徒が学年全体に増えてきた。そして、学習に前向きに取り組む雰囲気広がってきた。(3年生)

【課題】

- ※より質の高い効率的な職員研修会の実施について、その企画・運営を明確にすること。
- ※職員一人一人がより高い研修意識・向上意識を持った研究・研修となるような、個人研究・個人研修の方法の工夫を図ること。
- ※少人数指導における、基礎的・基本的な学習と発展的な学習への取り組みの一層の工夫を図ること。
- ※以下の、本校研究の各項目内容について、さらに整理・統合すること。

**来年度に向けたキーワード(整理事項)**

- 1, 基礎・基本の定着と発展的な学習
  - 2, 学習規律の確立(学校)と家庭学習の習慣化(家庭)
  - 3, 職員研修(研究授業・指導と評価の一体化)
  - 4, 校種間連携
  - 5, 『心をはぐくむ』教育活動
- ※5の『心をはぐくむ』教育活動については、『真の学力向上』を目指す本校が、本年度大切にしてきたことである。『心で聴く話』の実践などを行っている。

(4) 研究成果の普及の方策

(本年度の公開)

- 1, 平成15年5月 : 北中校区小中合同研修会の開催  
本校研究の紹介
- 2, 平成15年6月 : 公開授業研究会  
(校区小学校教員参加)
- 3, 平成15年10月: 公開授業  
(全保護者及び校区小学校教員対象)
- 4, 平成15年12月: 愛媛県教育研究会(15名)のメンバーへの研究実践発表及び、資料提供。
- 5, 平成15年12月: 公開授業  
(全保護者及び校区小学校教員対象)
- 6, 保護者への説明会  
3月に、来年度入学する保護者・在校生保護者への説明会を行い、本校のフロンティア事業についても理解を深める場とする。

(今後の予定)

- ア 本年度中に、北中学校ホームページの開設  
学力向上フロンティア事業の説明と本校研究成果のホームページでの公開
- イ 平成16年11月開催学習発表会においての、本校学力向上フロンティア事業の取り組みの紹介
- ウ 研究の歩みのとりまとめと、資料配付

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               3学級以下                       4～6学級  
                                  7～9学級                       10～12学級  
                                  13～15学級                    16学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T. Tによる指導  
                                  その他

【研究教科】               国語               社会               数学               理科

- 外国語     音楽     美術     技術・家庭  
 保健体育     その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有     無

~~~~~  
【特色ある取組事例として紹介したいポイント（都道府県教育委員会記入）】